

平成14年4月  
長岡京市立図書館

## 神足村の 自治と記録

江戸時代に村の運営を図るために作成された文書は自治会、あるいは個人の家に今も大切に保管されています。今回は神足地区に伝わる資料を中心に、村の運営に関する資料を紹介します。

📍 展示期間

平成14年4月3日～6月2日

### 🌟 江戸時代の神足村

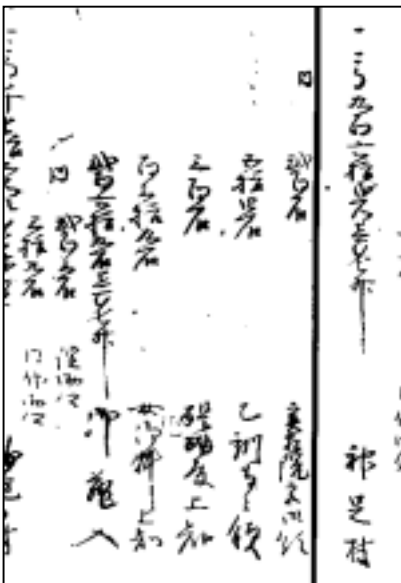
神足村は西国街道沿いに位置し、村のほぼ中央を小畑川が流れていました。寛永10(1633)年～慶安2(1649)年まで(当時、古市村は神足村に含まれる)、後の高槻藩主永井直清の領地となり、直清転封後は幕府の蔵入地、女院料など京都代官支配地や寺社領が入り組む、「相給あいきりゅう」の村となりました。

「相給」とは、幕府が1つの村を複数の領主に知行させることを

いい、京都近郊の村々では天皇や女院(院号を賜った天皇の母や后など)の御料、公家や寺社などの領地が少しずつ複数の村にわたって設定されたため、この「相給」の村が一般的でした。

### 📍 山城国高附帳写(部分)

山城国の村ごとに寛延2(1749)年ごろの石高と領主の内訳が記されています。神足村の場合、石高は962石1斗7升、実相院領・乙訓寺領・醍醐家上知・女院料上知・御蔵入(=幕府領)の5領主で構成されていました。



## ☀ 村の運営と村役人

領主が複数存在する相給の村では、領主のまとまり(=「株」)ごとにおかれた株庄屋と、すべての「株」を含めた村全体を統括する村庄屋の、性格が異なる2つの庄屋が存在していました。株庄屋は領主によって任命され、主に田畑の維持、<sup>なうげにん</sup>名請人の把握、年貢収納を行いました。それに対し、村中の総意のもとに選ばれたのが村庄屋で、この村庄屋を中心に村の治安、山野・水利の維持管理、神事などが運営されました。

## ☀ 村方文書の作成・保管・引継

江戸時代の村のようすを、今日のわたしたちがうかがい知ることができるのは、<sup>こもんじょ</sup>古文書(当時の書類)が村の伝統を引き継ぐ自治会や庄屋を務めた家に残されているからです。

村では山林や水利など共有財産の権利をめぐる他村との争論や、庄屋の不正を追及する争論などがしばしば起こりました。そのさいには、以前に取りかわした証文や絵図などの古文書が証拠として提出されたため、取り決めや村絵図、村入用帳など、村の重要書類が村箱に入れられて大切に保管されていました。

神足地区には村に伝わる文書を書き上げた『村諸書物目録』と共に、実際にその帳面に記された文書の一部が今も残っており、文書管理が村の自治にとって大切な要素の一つであったことがうかがえます。



### 展示資料

(4月2日～30日)

- ・村諸書物目録帳(長谷川太一家文書)
- ・諸事留帳(長谷川太一家文書)
- ・天明8年寺社改絵図(長谷川太一家文書)
- ・山城国高附帳(長岡京市教育委員会蔵)

## ☀ 村の自治と村掟

村には、村人の生産・生活を維持するために自ら定めた法(=村掟)がありました。その決定方法、形態、内容はその時々によって異なり、博奕・盗み<sup>ぼくち</sup>の禁止など村内の秩序に関するものや日常生活の儉約など細かく取り決められました。また、村掟の末尾には条項を守ることを誓う文言とともに、村人全員の署名と捺印があり、村中の総意に基づいて定められていたことがわかります。

明治になり、近世の村掟は規約や規定となって新しい地域の秩序が定められました。近世の村から近代の村へ、そして区へと地方制度が変わっていくなかで、各地区では地域の実情に応じて規約の改正を繰り返し、この規約をもとに区を運営しました。



### ✦ 神足区の規約

『字神足区部内規約申合書綴』  
「風紀矯正及博奕停止規約」「神足区衛生組合誓約書」など、明治後半の神足区内の各種規約がまとめて綴られている。

### 展示資料

(5月2日～6月2日)

- ・ 神足神社造替願(長谷川太一家文書)
- ・ 村入用帳(長谷川太一家文書)
- ・ 神足区の規約(長岡京市教育委員会蔵)
- ・ 條約為取替証(長谷川太一家文書)

## ふるさとワーク

くらしのなかの歴史をウオッチング

「ふるさとワーク」は、市史資料をとおして地域の歴史を学ぶ学習会です。生の資料を読み解いたり、野外にいて調べたり。身近なくらしのなかの歴史を、いっしょに“発見”しましょう。

3月9日(土)に、第1回のふるさとワーク「長岡天満宮の万灯祭2002～早春の長岡天満宮を歩こう～」を行いました。

万灯祭に関する学習会の後、「今が満開」の梅の香に誘われて長岡天満宮へ。50年に一度の大祭を前にした活気あふれ境内のなかで、伝統の息吹を伝える古い社や石灯籠などを見学しました。



また、長岡天満宮の御協力を得て、江戸時代に奉納された絵馬や、明治35年の万灯祭に奉納された絵馬、八条宮家が奉納した江戸時代初期の歌仙絵などをみせていただきました。

解散は、平成6年に開園した長岡公園の梅林。この梅の木も、その成長とともに年々華やかになっています。思いがけず歴史の散歩道を「発見」された方もおられました。

江戸時代の古文書の解読にチャレンジしてみませんか！初心者の方も大歓迎です。くわしくは、「広報ながおかきょう」4月15日号、5月15日号でお知らせします。



次回展示

小畑川の水害(平成14年6月4日～7月初旬)